



その朝、コブタは、おかあさんからスケートぐつをもらいました。

「わあいわあい、ぼく、きょう、おたんじょうびだった？」と、きくと、

「ええっとね、たぶん、おたんじょうびは、ちがう日よ」と、おかあさんは、こたえます。

「わあいわあい、はやく雪がふらないかなあ」と、コブタは、はねながら、いいましたが、

「雪の上でするのはスキーですよ。スケートは氷の上でするんです」

と、おかあさんは、きびしい声で注意しました。それで、コブタが、

「わあいわあい、はやく水がふらないかなあ」

と、いいおすと、

「水はふってくるんじゃないやありません。さむくなって池や湖の水がしぜんにかたまつて、氷ができるんです」

と、おかあさんは、もつときびしい声で教えました。

それで、コブタが、

「わあいわあい、はやくさむくなつて池や湖の水がしぜんにかたまつて、氷ができないかなあ」

と、すこしめんどくさくなりながら、それでもがんばっていいおすと、

「そうね。でも、いまはまだ夏だから、氷のできるのはまだまだうーんと先のことね」

と、おかあさんはやさしくいって、にっこりしました。

「おかあさん、夏なのにどうしてスケートぐつなんかくれ